ふくしま女性活躍応援会議

福島県と県内の様々な分野の団体で構成する「ふくしま女性活躍応援会議」は、8月2日(木)福島県男女共生センターでシンポジウムを開催。当日は270人が参加し「女性活躍」や「働き方改革」、「男性の家事・育児・介護への参画」についての理解を深めた。

ふくしまから はじめよう。
Future From Fukushima.
福島県

女性も男性も輝く未来づくりシンポジウム

主催 ふくしま女性活躍応援会議　福島県

ふくしま女性活躍応援会議(構成団体)

福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島県中小企業家同友会、福島県経営者協会連合会、福島県中小企業団体中央会、福島県農業協同組合中央会、福島県漁業協同組合連合会、福島県森林組合連合会、福島県医師会、福島県社会福祉協議会、福島県建設産業団体連合会、アカデミア・コンソーシアムふくしま、日本労働組合総連合会福島県連合会、福島県女性団体連絡協議会、福島労働局、福島県市長会、福島県町村会、福島県男女共生センター、福島県

講演

「誰もが活躍できる職場で、利益と笑顔がアップ」～新しい働き方とマネジメント～

講師

川島 高之 氏

NPO法人ファザーリング・ジャパン／理事
NPO法人コヂカラ・ニッポン ／代表

■1987年慶応大学卒、三井物産(株)に入社。2012年に上場会社の社長就任、2016年フリーランサーに。
■NPO法人ファザーリング・ジャパン理事、NPO法人コヂカラ・ニッポン代表、内閣府・男女共同参画会議専門調査会委員、文部科学省・学校業務改善アドバイザー。
■「元祖イクボス」としてNHK「クローズアップ現代」で特集され、AERA「日本を突破する100人」にも選出。

働く時間や場所が限られた制約社員もレギュラーに

「イクボス」は、4年前に私たちファザーリング・ジャパンが世に出した言葉で、部下や次世代を育てるボスのことです。女性が仕事で活躍するようになると、従来の男性型の働き方を変えなければなりません。残業や休日出勤を厭わない、単身赴任にノーと言わない。このような男性の働き方を支えていたのは専業主婦でした。現在、働く時間や場所に制約のある社員が7割いると言われています。そういった人もレギュラーとして活躍できるために、仕事と私生活を両立できる職場環境を整えましょうと申し上げてきました。

ワーク・ライフ・バランスは経営戦略

職場に不在者が増え労働時間が減れば、収益が下がるのではと経営陣は心配します。心配無用です。むしろ収益や組織の成果は上がる可能性があります。その理由は「一人ひとりの活躍度が高まる」から。視野が広がり、新しいアイディアが生まれます。それから「マネジメント能力が身に付く」。PTA活動のように価値観が異なる人たちの意見をまとめることは絶好の機会となります。さらに「段取り上手になる」。時間に制限があるからこそ、逆算して全力で結果を出そうと努力します。私生活の充実は仕事能力を高めるのに役立ち、結果的に組織力を上げることにつながります。ワーク・ライフ・バランスは経営戦略です。社長をはじめトップの強いメッセージや行動が求められます。

ワーク・ライフ・バランスで人生を3倍楽しむ

それでも変わらない職場はたくさんあります。管理職の意識が昭和のままだから。逆に言うと部長、課長の意識で改革は相当進みます。上司は部下の仕事を把握して評価し、貢献したら褒めることが大切です。また、得意分野・長所・専門性を生かした仕事を与えると能力が伸びます。イクボスの極意は「部下に仕事を任せる」こと。これができれば「働き方改革」はさらに進みます。

ワーク(仕事)とライフ(自分ごと)とソーシャル(社会ごと)。三つとも人生には価値があることです。「働き方改革」は「生き方改革」。ワーク・ライフ・バランスを実現し、上司も部下も人生を3倍楽しみましょう。

トークセッション

「女性も男性も輝く福島を目指して」

川島高之氏をコーディネーターとして、「女性が輝く先進企業表彰内閣総理大臣賞」を受賞した企業のトップをお招きし、知事と「女性活躍」、「働き方改革」について意見交換しました。

コーディネーター
川島 高之 氏

出演者
福島県知事 内堀 雅雄
株式会社東邦銀行 取締役頭取 北村 清士 氏
カルビー株式会社 執行役員 福山 知子 氏

女性の活躍なくして企業の成長はない

北村　東邦銀行の営業店において、窓口や事務を担当している職員の大半は女性です。今や、個人向けローンのみならず、事業向けの融資を担当している女性職員もいます。「女性の活躍なくして当行の事業継続はありえない」というくらい、女性の活躍の場が増えており、女性の部長、支店長、副支店長も数多く生まれております。

福山　カルビーでは、平成21年に就任した当時の松本晃会長兼CEO(最高経営責任者)がダイバーシティ(注)を力強く推進しました。言葉そのものを知らない人も多く、松本自らが各事業所のタウンホールミーティングをまわり、経営の考え方とともに理解を深めていきました。ともかく松本が引っ張っていったというのが弊社のダイバーシティが進んだ一番のポイントかなと思っています。

(注)多様な人材を積極的に受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとするマネジメント。

内堀　お二人の話を伺っていると、県庁はまだまだ取り組みが十分ではないなというのが率直な感想です。ただ、逆に言うと、伸びしろがあるということにもなります。「女性活躍」や「働き方改革」で大切にしたいことが二つあり、一つは"当たり前"の基準を変えたい」という思い、もう一つは「はじめの一歩」です。

私自身、知事になって3年と数か月ですが、新しく始めたことが五つあります。一つは平成27年8月に「イクボス宣言」を公表しました。平成28年7月には県内の様々な分野の団体の皆さんと「ふくしま女性活躍応援会議」を立ち上げ、女性活躍応援宣言を発表いたしました。そして、昨年の11月19日、「いい育児」の語呂合わせですが、「育児についてみんなで考えよう」という日を制定しました。さらに、今年度からは新たに二つの取り組みを始めており、一つは「イクメン宣言」。男性に育児や家事の大切さを感じてもらえるセミナーを開催しています。もう一つが「あさ活」、夏の時差出勤をよりフレックスな形で始めています。

週休日が2日になったり、クールビズで夏のノーネクタイが浸透したり、"当たり前"の基準」は変えることができるという思いを大切にしたいと考えています。また、御来場されている皆さんも、やれることがあると感じておられるのではないでしょうか。まず「はじめの一歩を踏み出す」、それが大事な気づきであって、次の行動につながると思います。

コーディネーター
川島 高之 氏

勤務時間が短くてもいい仕事はできる

福山　執行役員のオファーがあった時は子どもが小学生だったので「育児時短勤務でもいいですか。」と交渉しました。松本から言われた言葉は「4時になったら帰れ。」です。「これが守れないならクビだよ。」と笑いながら言われました。つまり「育児時短勤務でもいい仕事ができることを見せてごらん。」ということだと思います。

北村　「朝型シフト」の効果は大きいと思います。朝早めに出勤し効率的に仕事をする朝型勤務へのシフトが定着してきて、1か月の平均残業時間は半減しました。こうした「働き方改革」により創出した余力を職員の仕事と家庭の両立支援等に充てるなど好循環が生まれています。企業内保育施設も、今年になってから三か所目を開設しました。

川島　すばらしいですね。「働き方改革」で削減したコストは働く人に還元する。それも今一番求められている企業内保育施設に。

福山　私は4時に帰らなければならないので、後の仕事はメンバーに任せるしかありません。とにかく任せて帰る。いかに仕事の裁量を渡し切るか。部長さんには「皆さんには実行責任があるので、まずは動いてください。結果の責任は私が取ります。」、「進めていく中で何かあれば悪いことから報告してください。」とお願いしました。

福島県知事
内堀 雅雄

会議を工夫することで無駄な時間を減らそう

北村　当行の重要会議の資料作成の際のキーワードは「シンプル化」です。会議資料の内容を予め把握していることを前提に進め、時間内での終了を目指しています。

内堀　確かに、会議で資料を読み上げるのは無駄です。私が副知事になった時に、今まで1時間やっていた会議を15分にしようと言いました。今はもっと短くなり10分位です。さらに、もう少し取り組みを進めて「立ち会議」を始めました。新しい会議スタイルを取り込んで、より短く、意見を言いやすくするという工夫をしています。

川島　カルビーさんでは、松本会長が会議室の撤廃を打ち出したと聞いています。その辺のことを教えてもらえますか。

福山　ノーミーティング、ノーメモですね。「部下の時間を多く奪うのは上司だ!」と松本はよく言っていました。よって、会議資料枚数も制限があり、きちんと議論することとなっていました。先ほど知事からお話がありました「立ち会議」。ちょっとこれは提案してみたいなと思います。

カルビー株式会社 執行役員
福山 知子 氏

株式会社東邦銀行 取締役頭取
北村 清士 氏

「まずはやってみる」大切なのは最初の一歩

福山　女性で管理職になりたくないという人もいるのですが、来た船には一度乗ってみることを私はおすすめします。「いやだったら降りればいい。」と。私はそう思って、ここまで来ました。

北村　女性活躍による経済効果は非常に大きく、「女性活躍」、「働き方改革」に取り組んできたことで当行の企業イメージは高まり、新卒者採用も順調です。「女性活躍」や「働き方改革」に積極的に取り組み、もし、誤りがあれば、正して次に生かしていくことが大事です。

川島　まずは、やってみる。変えていけばいいということですね。最後に知事にお願いします。

内堀　今日、お話を伺って、改めて私自身が動かなくてはならないと思いました。大切なのはリーダーシップです。県庁の男性職員の育児休業取得率は全国でもトップクラスになりましたが、東邦銀行さんは100%ですから、まだまだやるべきことがあります。まず、県庁内でできることに取り組み、県内の企業、自治体、団体にも「イクボス宣言」、「女性活躍」などの取り組みを一緒になってやりましょうと伝えて、広めていきたいと思います。

今日も大勢の女性の方に来ていただいておりますが、皆さんがいきいきと輝き、職場で活躍できるようになるためには、まず、できることを始めて、次への一歩を踏み出すことが大切ではないでしょうか。その際、一番大事なことは先進的なトップランナーの話を聞くことで"気づく"ことだと思います。このような機会を増やして、女性が社会で、会社や家庭で輝けるようにする。こういった取り組みを続けていきたいと思います。